

**「アトリ」千里の鳥・万博の鳥 (A4版第40回)**  
**(千里タイムズ2016年1月号原稿)**

あけましておめでとうございます。

今年も「千里の鳥・万博の鳥」を楽しんでいただきたいと思います。

アトリは体長16cm、スズメよりやや大きい小鳥。良く似たカワラヒワの斑紋が黄色く輝くのに対し、アトリは橙色が目立つ。

アトリは11月頃日本に渡ってきて、平地から山地の林・農耕地・草地ですごし、4月下旬ころに北の繁殖地に帰っていく冬鳥である。繁殖地はユーラシア大陸の亜寒帯、東はカムチャッカ半島から西のスカンジナビア半島まで、越冬地はユーラシア大陸の温帯、日本～スペインまで広く分布している。

大群になることから集鳥(あつとり)がアトリとなったとも言われるアトリ、時には10万羽以上と言われる群が観察され、ニュースとなる。このような大群の餌場はスギ・ヒノキなどの針葉樹林、そこでは青空をうめつくすように飛び回るアトリが観察できる。

大阪近郊の都市公園では毎年のようにアトリは観察できるが、中でも万博公園は園内に餌木が多いこともあって、毎年、数100羽のアトリが越冬する。万博公園でアトリに最も好まれている木の実にはアキニレ、そしてアメリカフウ・カエデ・ハンノキなどの乾果である。公園内にアキニレが1000本以上あると思われ、一冬の主食となっているが、渡去直前の4月には、アキニレの実が無くなっており、代わりに早春に花が咲き青い実がついたばかりの同属のハルニレが餌場となっている。

さて、今月の写真は自然文化園西大路の街路樹プラタナスにくっろぐアトリの群、遠景で鳥が小さく分かりにくいですが、この中に50羽ほどのアトリが休んでいる。羽づくろいなど思い思いにしているのは、近くのアキニレで栄養補給をすませたばかりかと思われる。

日本野鳥の会大阪支部主催

**①万博公園定例探鳥会(1月用)**

アトリ・シメ・ツグミ・シロハラなどの冬鳥、そしてカワセミやシジュウカラなどの留鳥との出会いを楽しみに、公園内を一巡する。

日時 1月9日(土)9:30～15:00

集合 自然文化園中央口

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・弁当、あれば双眼鏡・野鳥図鑑

服装 ハイキングと同じ、時節柄防寒対策は充分に

参加費 大阪支部会員100円、非会員200円  
他に万博公園入園料250円が必要

吹田野鳥の会主催

**③服部緑地探鳥会**

服部緑地は万博公園よりも大きな池が多く、カモが10種類近く観察できる。しかも冬は林に小鳥も多いので、40種近い鳥が楽しめる。

日時 1月17日(日)9:00～12:00

集合 北大阪急行緑地公園駅西出口広場

解散 服部緑地内の予定

担当 稲波 誠氏他

持ち物 筆記具・名札、あれば双眼鏡・野鳥図鑑

服装 ハイキングと同じ。時節柄、防寒対策に留意を

参加費 吹田野鳥の会会員無料、非会員200円

問い合わせ 090-6901-1425 (平<sup>ひら</sup> 軍二)  
メール: g-hira@nifty.com

\*\*\*\*\***(写真)**\*\*\*\*\*

種 名: アトリの群

撮影年月: 2015年12月13日

撮影場所: 万博公園

撮影者: 有賀憲介